

創建

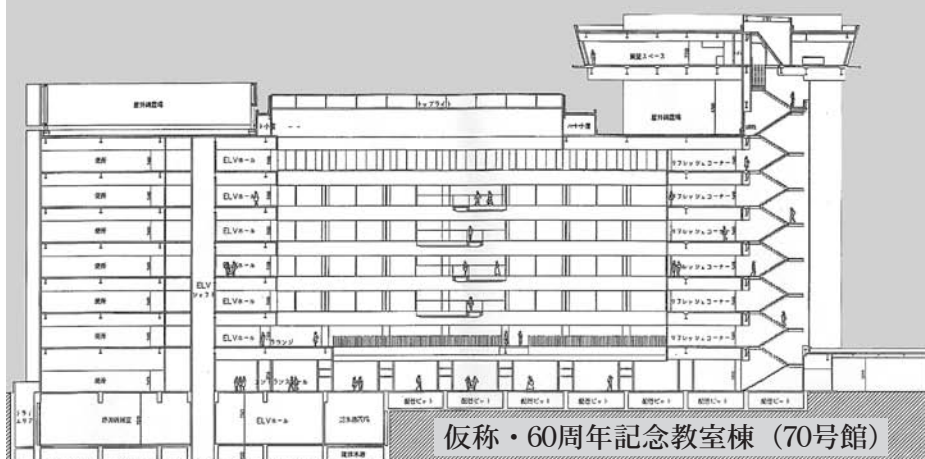
そうこん

卒業記念号

60周年記念教室棟（仮称）・ 1
 博士（工学）学位論文・ 2
 修士学位論文・ 3
 学術研究報告会・ 4～5
 学術論文・研究発表・ 6～7
 表彰者・教室ニュース・ 8

2006・3・25 VOL.40 NO.3（通巻118号）

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■



祝 卒業・修了

建築学科 教職員

◇教授：

大濱 嘉彦
 狩野 勝重
 倉田 光春
 黒田 浩司
 出村 克宣
 三浦 金作
 若井 正一

◇助教授：

浅里 和茂
 千葉 正裕
 濱田 幸雄
 土方 吉雄
 松井 寿則

◇専任講師：

S. パリーク
 市岡 綾子
 浦部 智義
 野内 英治
 八町 雅康
 渡澤 正典

◇非常勤講師一同

◇学科センター：

小林まゆみ

祝 平成17年度 博士（工学）学位論文の紹介

本年度は、本学大学院工学研究科建築学専攻において下記の2名が博士（工学）の学位を取得された。
なお、林 志翔氏（大学院OB）は、論文提出による博士で、日比野 巧氏は、課程修了による博士である。

『促進養生コンクリートの高性能化とその応用』

林 志翔



近年、鉄筋コンクリート構造物の高層化、大型化および高耐久化に伴って、コンクリート製品も、ニーズの多様化が進んでいる。コンクリート製品の場合、生産効率を上げるために、従来から促進養生が行われている。本研究では、促進養生コンクリートの高性能化を目的として、促進養生モルタルおよびコンクリートのフレッシュ時および硬化後の性質に及ぼす材料の種類、調合、製造方法などを検討し、最適製造条件を見いだすとともに、その実用化を図っている。

本論文は、「促進養生コンクリートの高性能化とその応用」と題し、全7章から構成されている。

第1章では、本研究の目的、背景、範囲、促進養生コンクリートの高性能化に関する既往の研究、意義および用語について述べ、本研究の位置づけを行っている。

第2章では、高温養生セメントモルタルおよびコンクリートの高圧縮強度化を目的とし、その圧縮強度に及ぼす材料の種類、調合、高温養生方法などの影響を検討し、最適製造条件を見いだしている。

第3章では、蒸気養生コンクリート製品の高品質化を目的とし、高流動コンクリート製品の表面気泡および蒸気養生コンクリート製品の品質に及ぼす影響要因を検討し、コンクリート製品工場で実施しやすい高品質コンクリート製品の製造技術を確立している。

第4章では、蒸気養生ポリマーセメントモルタルの高曲げ強度化を目的とし、その曲げ強度発現性に及ぼす材料の種類、調合、養生条件などの影響を検討し、その最適な製造条件を提案するとともに、そのフレッシュ時の性質、力学的性質、耐久性などの基本物性を明らかにしている。

第5章では、高曲げ強度ポリマーセメントモルタルの実用化を目的とし、コンクリート製品工場の既存設備によってマンホールを試作し、その構造性能と水密性を検証している。

第6章では、蒸気養生高曲げ強度ポリマーセメントモルタルの高性能化機構および高温養生高圧縮強度セメントモルタルの強度発現機構について、凝集構造、レオロジー特性、水和反応性、硬化体の組成と微細構造などの観点から解明している。

第7章は、結論であり、第2章から第6章までに得られた研究成果を総括している。

『建物の動的縮小および復元法に基づく近似立体振動解析に関する研究』

日比野 巧



1995年に発生した兵庫県南部地震では、これまであまり注目されることがなかった上下動が建物崩壊に大きく寄与したと考えられている。実地震波は、水平2方向・上下1方向の3次的に伝わる波であり、それに応じて建物も3次的に挙動する。このような建物の振動性状を忠実に再現するためには、既存の建物モデルによる振動解析では難しく、かつ、部材レベルでの詳細な変形や応力を求めることは出来ない。一方、建物全体だけでなく細部の応答を立体的に把握可能にするモデルとして、有限要素モデルが一般的に知られているが、未知数が膨大になるため、今日のコンピュータ性能を持っても現実的な手法ではない。したがって、本研究では、まず、膨大な未知数となる立体的な有限要素モデルの未知数を大幅に精度よく低減し、かつ、3次的な実地震動入力に対して部材レベルでの詳細な変形や応力を求めることが出来る解析法を提案している。さらに、各種建物モデルに本論文で提案する解析法を適用し、有効かつ実用的な解析法であることを明らかにした。

本論文は、「建物の動的縮小および復元法に基づく近似立体振動解析に関する研究」と題し、全5章から構成されている。

第1章では、本研究の目的と研究背景および研究の範囲、本解析法の必要性ならびに既往の研究を示し、本研究の位置づけを行っている。

第2章では、本研究で提案する建物の近似立体振動解析法について述べ、2種類の立体モデルに対して弾性応答解析を行い、弾性内における各部材の変形や応力について精度検討を行っている。本解析法は、「動的縮小法」、「ひずみ置換」および「変位関数置換」の3つの手法を組み合わせたものであり、純フレーム立体構造の4階建鉄筋コンクリート造モデルとセットバックを有する6階建鉄筋コンクリート造モデルに対し、大幅な未知数の低減を可能にした。3次的な実地震動入力による各モデルの弾性応答解析は、梁・柱および床板内の変形や応力を精度よく求めることができ、さらに大幅な時間短縮が可能となった。

第3章では、塑性変形領域においても精度がよくなる弾塑性近似振動解析法について述べ、平面モデルに対して弾塑性応答解析を行い、塑性変形領域における各部材の変形や応力についてもよい精度で得られることを示している。本解析法は、第2章で提案した解析法のうち「動的縮小法」を改良したものであり、セットバックを有する9階建鉄骨造平面フレームモデルの解析では、大幅に未知数を低減し、精度のよい梁および柱の変形や応力が得られた。

第4章では、未だ適切に把握しきれていない細長い平面形を有する建物の実際の立体振動性状について、多点常時微動測定から、その立体振動性状を明らかにしている。また、有限要素モデルを用いた微動応答解析を行い、測定結果と比較検討し、本論文で提案する解析手法の精度検討対象としている有限要素モデルの妥当性を明らかにした。

第5章は結論であり、第2章から第4章で得られた研究成果を総括している。

祝 平成17年度 大学院工学研究科建築学専攻・修士学位論文

平成17年度修士学位論文審査発表会は、平成18年2月17日(金)に次世代工学技術研究センターで開催された。その結果、本年度は、下記の論文を発表した大学院生27名(50音順)に修士(工学)の学位が授与された。

- ・ 接合部パネルに斜補強筋および繊維補強高強度コンクリートを用いた柱・梁接合部の弾塑性挙動に関する実験的研究
石田 圭司 (指導教員：黒田浩司 教授)
- ・ 老人保健施設における一般棟・認知症専門棟の空間構成に関する研究
遠藤 泰司 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 会津圏公営住宅における居住者属性と住まい方にみる住戸内居住環境に関する事例研究
太田 浩市 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 高性能・多機能ポリマーセメントモルタル及びコンクリートの開発
太田 将弘 (指導教員：大濱嘉彦 教授)
- ・ プレキャスト分割壁を有する骨組の弾塑性解析
上村 貴広 (指導教員：浅里和茂 助教授, 倉田光春 教授)
- ・ 土壁のタバコ煙吸着―放散特性 ―天然内装材料への鉱物粉末, 抽出液の混合, 含浸効果―
神山 知則 (指導教員：岩崎 博 講師, 出村克宣 教授)
- ・ 福島県内既存戸建住宅団地の生活環境整備に関する研究
木下 裕介 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ はしごによる急勾配の昇降動作特性と機能寸法の計測に関する人間工学的研究
木村 友明 (指導教員：若井正一 教授)
- ・ 能舞台における演者の姿勢と動作特性に関する人間工学的研究
小堀まどか (指導教員：若井正一 教授)
- ・ ビニロン繊維補強ポーラスコンクリートの基礎的性質
斉藤 俊克 (指導教員：出村克宣 教授)
- ・ 属性による空間認識の差異に関する研究
佐藤 貴晴 (指導教員：倉田光春 教授)
- ・ 現場における建具の遮音性能測定に関する研究 ―模型実験による内部音源法の適用に関する検討―
島田 七海 (指導教員：濱田幸雄 助教授)
- ・ 高齢化対応住宅の設計指針整備と普及に向けた建築士並びに福祉専門職の認識の実態調査
杉永 順子 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 遊具による事故防止に向けた幼児の安全性に関する研究 ―遊具の使用実態と幼児の行動特性について―
鈴木 崇 (指導教員：若井正一 教授)
- ・ 須賀川市における住民参加型のまちづくりに関する研究
鈴木 康史 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 妊婦の困難動作等からみた生活場面の利便性に関する人間工学的研究
高梨 秀樹 (指導教員：若井正一 教授)
- ・ 薄肉開断面材の立体振動に関する基礎的研究
高橋 敏紀 (指導教員：倉田光春 教授)
- ・ 歩行条件の異なる歩行者の探索行動と注視に関する研究 ―注視傾向と空間把握について―
竹内亜紗美 (指導教員：三浦金作 教授)
- ・ 出入口における履物の着脱行為の動作特性と必要領域に関する研究
中野晃太郎 (指導教員：若井正一 教授)
- ・ 細長い平面形を有する建物の微動振動性状に関する研究
保科 孝好 (指導教員：千葉正裕 助教授, 倉田光春 教授)
- ・ 鉄道騒音の評価方法に関する実験的検討
増井 正孝 (指導教員：濱田幸雄 助教授)
- ・ 地方都市における駅前広場整備手法に関する研究
松下 幸太 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 被災者のための避難施設整備に関する研究
松村 健史 (指導教員：狩野勝重 教授)
- ・ 植生が屋外の音の伝搬性状に与える影響
森田 健 (指導教員：濱田幸雄 助教授)
- ・ 曲線材の立体振動に関する基礎的研究
梁取 由生 (指導教員：倉田光春 教授)
- ・ ポーラスコンクリートブロックを用いた水循環による水質浄化システムの開発
山森 雄介 (指導教員：出村克宣 教授)
- ・ 高次変形を考慮した梁の一般解
和田 康弘 (指導教員：倉田光春 教授)

平成17年度日本大学工学部学術研究報告会

開催日：平成17年12月10日(土)

会場：工学部1号館

第1会場（計画・環境系） 於：111号教室

- ・須賀川市南部地区まちづくりに関する研究 ―市民活動について―
○鈴木 康史（日大工・院生），有賀 保二
- ・須賀川市のまちづくり ―まちづくり資源としての井戸―
○宮林 大輔（日大工・院生），有賀 保二
- ・非繁華地区を起点とした探索条件の異なる歩行者の探索行動と注視に関する研究
―探索歩行時の空間把握について―
○竹内亜紗美（日大工・院生）三浦 金作，土方 吉雄
- ・地方都市における駅前広場整備手法に関する研究
―その3 郡山駅西口駅前広場におけるイベント開催時の滞留者実態について―
○阿部 憲介（日大工・院生），松下 幸太，土方 吉雄，三浦 金作
- ・地方都市における駅前広場整備手法に関する研究
―その4 郡山駅西口駅前広場におけるイベント分類別の滞留者実態―
○松下 幸太（日大工・院生），阿部 憲介，土方 吉雄，三浦 金作
- ・環境共生型居住地整備に関する研究
―その3 複合型環境共生住宅団地における環境問題への取り組み実態―
○田邊 誠（日大工・院生），土方 吉雄，三浦 金作
- ・既成市街地における防犯環境設計に関する研究 ―その3 路上犯罪不安感と街路特性―
○山浦 茜（日大工・院生），土方 吉雄，三浦 金作
- ・児童の遊び場に関する調査研究 ―遊びの4要素・空間・時間・仲間 内容について―
○杉本 昇平（日大工・院生），土方 吉雄，三浦 金作
- ・子どもの生活環境における場の形成に関する基礎的研究
市岡 綾子（日大工）
- ・木材表面の仕上方法が色変化に及ぼす影響 ―暴露期間5ヶ月―
浦 憲親（金沢工大・建築）
- ・総合気象観測装置 ―その2 現状と課題―
○八町 雅康（日大工・建築），濱田 幸雄
- ・内部音源法による建築物の遮音性能測定方法に関する研究 ―縮尺模型による実験的検討―
○濱田 幸雄（日大工・建築），島田 七海
- ・J I S規格改訂に伴う学校教室用机・イスの使用実態に関する検討
―新J I S規格の導入実態と座席周囲に必要なスペースについて―
○根本 賢（日大工・院生），若井 正一
- ・閉空間歩行時の心理的負担と心拍変動との関係に関する検討
○本多 薫（日大工・院生），若井 正一
- ・建築空間を表す形容詞認識の差異に関する研究
○佐藤 貴晴（日大工・院生），浦部 智義，倉田 光春
- ・会津圏公営住宅における居住者属性と住まい方にみる住戸内居住環境に関する事例研究
―その4 居住階別にみる居住者特性と住まい方にみる温熱環境の実態について―
○太田 浩市（日大工・院生），松井 寿則
- ・既存戸建住宅団地の更新整備に関する調査研究
―その5 空き地・空き家の実態及び団地内の居住者の流動性について―
○木下 裕介（日大工・院生），松井 寿則
- ・住宅改造・改修における専門職の連携に関する研究
○杉永 順子（日大工・院生），松井 寿則
- ・老人保健施設における火災時の避難計画に関する研究
○平 奈穂美（日大工・院生），松井 寿則
- ・通所型在宅サービス提供施設のサービス圏域に関する研究
○別所 知彦（日大工・院生），松井 寿則

第2会場（構造・材料系） 於：112号教室

- ・ I S O標準砂を用いたポリマーセメントモルタルの難燃性
○國分 友貴（日大工・院生），大濱 嘉彦
- ・ 廃発泡ポリスチレンのメタクリル酸メチル溶液を用いたポリマーコンクリートの耐久性
○津久井 勲（日大工・院生），大濱 嘉彦
- ・ 硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さ及びエポキシ樹脂の硬化度に及ぼす養生方法の影響
○太田 将弘（日大工・院生），大濱 嘉彦
- ・ 壁土の品質に関する基礎実験
○松村 崇司（金沢工大・院生），浦 憲親（金沢工大），後藤 正美（同左），永野紳一郎（同左）
- ・ 雨中コンクリートの品質に及ぼす局部養生の影響
○照屋 秋洋（金沢工大・建築・院生），浦 憲親（前掲）
- ・ 廃木材の再利用に関する研究 ―コンクリート用型枠パネルへの適用（実大施工実験）―
○柳 啓（財建材試験センター），大島 明（同左）
- ・ 環境調和型機能性材料及びシステムの開発
○出村 克宣（日大工） 斎藤 俊寛，山森 雄介，相楽 菅平，佐々木一人
- ・ 雨水の再資源化システムの性能評価
○山森 雄介（日大工・院生），出村 克宣
- ・ 無機系表面含浸材の性能評価
○佐々木一人（日大工・院生），出村 克宣
- ・ まさ土を用いた土舗装工法
○相楽 哲平（日大工・院生），出村 克宣
- ・ 繊維補強ポーラスコンクリートの強度推定法
○斎藤 俊克（日大工），出村 克宣
- ・ 街並み構成材料の地域特性に関する調査研究
―その15 日本の主要な中心業務30地区における外壁仕上材料の採用傾向―
○田端 隆文（日大工・院生），岩崎 博，土方 吉雄
- ・ 土壁のタバコ煙吸着―放散特性 ―その32 スギ抽出液混合土壁及び畳のマイナスイオン室内濃度―
○神山 知則（日大工・院生），岩崎 博
- ・ 高強度材料を用いたR C造柱・梁接合部に関する実験的研究
―その4 繊維補強コンクリートおよび接合部斜補強筋を用いた試験体の実験概要および実験結果―
○桑田 陽平（日大工・院生），石田 圭司，Sanjay PAREEK，黒田 浩司
- ・ 高強度材料を用いたR C造柱・梁接合部に関する実験的研究
―その5 繊維補強コンクリートおよび接合部斜補強筋による補強効果―
○石田 圭司（日大工・院生），桑田 陽平，Sanjay PAREEK，黒田 浩司
- ・ 主筋およびせん断補強筋の代わりにC F R Pグリッドを用いたR Cはりの曲げ・せん断耐力に関する実験的研究
○鈴木 裕介（日大工・院生），Sanjay PAREEK，倉田 光春
- ・ プレキャスト分割壁の3層フレーム実験および解析
○上村 貴広（日大工・院生），浅里 和茂，千葉 正裕，五十嵐賢次（榊福田組）
- ・ 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定 ―スウェイ・ロッキングの検討(2)―
○保科 孝好（日大工・院生），倉田 光春，千葉 正裕，浅里 和茂，日比野 巧
- ・ 曲線材の立体振動に関する研究
○梁取 由生（日大工・院生），野内 英治，倉田 光春
- ・ 曲線材の平面振動に関する基礎的研究
○鈴木 綾香（日大工・院生），野内 英治，倉田 光春
- ・ 壁板の平面振動に関する基礎的研究
○篠崎 賢司（日大工・院生），野内 英治，倉田 光春
- ・ 薄肉開断面材の振り振動に関する研究
○高橋 敏紀（日大工・院生），野内 英治，倉田 光春
- ・ 壁付フレームの平面振動に関する研究
○和田 康弘（日大工・院生），野内 英治，倉田 光春

建築特別講演

開催日：平成17年12月10日 会場：111教室

ヴェネツィアの建築・都市事情 ―イタリアの景観保全とまちづくり―

三浦 金作（日大工・建築）

学 術 論 文

* 届出があった論文を掲載

- 斎藤俊克, 出村克宣, 「ビニロン繊維補強ポーラスコンクリートの基礎的性質」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 27, No. 1, pp. 247-252, June 2005. (コンクリート工学年次大会2005)
- 山森雄介, 出村克宣, 山崎賢一, 「ポーラスコンクリートを用いた用水池のための水質浄化システム」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 27, No. 1, pp. 1195-1200, June 2005. (コンクリート工学年次大会2005)
- 田綿隆文, 岩崎 博, 土方吉雄, 街並み構成材料の地域特性に関する調査研究
ーその5 地域背景の異なる中心業務地区における外壁仕上材料の採用傾向と空間価値ー,
日本大学工学部紀要, 第47巻第1号, 平成17年9月
- A. Beeldens, D. V. Gemert, H. Schorn, Y. Ohama and L. Czarnecki, "From Microstructure to Macrostructure: an Integrated Model of Structure Formation in Polymer-Modified Concrete", Materials and Structures, Vol. 38, No. 280, pp. 601-607, July 2005.
- 大濱嘉彦, 高橋 忍, 太田将弘, "SBRラテックスと硬化剤無添加エポキシ樹脂を併用したポリマーセメントモルタルの強さ性状に及ぼす促進養生の効果", 材料, Vol. 54, No. 8, pp. 804-809, Aug. 2005.
- Y. Ohama, "Recent Status of Research and Development in Polymer-Modified Mortar and Concrete in Japan", Proceedings of the Third International Conference on Construction Materials: Performance, Innovations and Structural Implications and Mindess Symposium (CD-ROM), The University of British Columbia, Vancouver, Canada, Aug. 2005.
- Y. Ohama, M. Ota and H. Tatematsu, "Properties of Polymer-Modified Mortars with Hydrocalumite for Intelligent Repair Materials", Proceedings of the International Conference on Concrete Repair, Rehabilitation and Retrofitting (ICRRR), Taylor & Francis Group, London, UK, pp. 931-937, Nov. 2005.
- N. W. Choi, I. Mori and Y. Ohama, "Development of Rice Husks-Plastics Composites for Building Materials", Waste Management, Vol. 26, No. 2, pp. 189-194, Jan. 2006.

研 究 発 表

* 届出があった論文を掲載

- 日本建築学会大会 日時：平成17年9月1～3日 場所：近畿大学（大阪）
 - ・ 二次元弾性梁の非線形理論とその応用 その2 二次元弾性梁の動的非線形近似解
○日比野 巧, 倉田 光春, 野内 英治
 - ・ 細長い平面形を有する建物の立体振動性状 その3 スウェイ・ロッキングの検討
○保科 孝好, 倉田 光春, 千葉 正裕, 浅里 和茂, 日比野 巧
 - ・ 亜硝酸型ハイドロカルマイトと硬化剤無添加エポキシ樹脂を併用したポリマーセメントモルタルの接着強さに及ぼす下地処理の影響
○国分友貴, 大濱嘉彦, 太田将弘
 - ・ 硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントコンクリートの強度性状に及ぼす促進養生の影響
○大濱 嘉彦, 太田 将弘
 - ・ 促進養生した硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さ性状に及ぼす遷移帯改質の効果
○太田 将弘, 大濱 嘉彦
 - ・ 廃発泡ポリスチレンのメタクリル酸メチル溶液を用いたポリマーコンクリートの基礎的性質
○津久井 勲, 大濱嘉彦, 太田将弘
 - ・ 繊維補強ポーラスコンクリートの強度推定法の検討
○斎藤 俊克, 出村 克宣
 - ・ 無機系止水材の性能評価及び止水機構の検討
○佐々木一人, 出村 克宣
 - ・ 赤外線サーモグラフィによる室内空間の温度分布測定
○出村 克宣
 - ・ 雨水の再資源化システムの維持管理状況
○山森 雄介, 出村 克宣
 - ・ 閉空間歩行時の空間認知と生体負担に関する基礎的検討
～道順記憶と心拍変動について～
○本多 薫, 若井 正一

・環境共生型居住地整備に関する研究

その2 共同型環境共生住宅団地における環境問題への取り組み実態 ○田邊 誠, 土方 吉雄, 三浦 金作

・既成市街地における防犯環境設計に関する研究

その1 犯罪発生と地域特性及び領域性の関連 ○杉本 昇平, 土方 吉雄, 三浦 金作, 山浦 茜

・既成市街地における防犯環境設計に関する研究

その2 路上犯罪防止要因と不安感との関連 ○山浦 茜, 土方 吉雄, 三浦 金作, 杉本 昇平

・地方都市における駅前広場整備手法に関する研究

その1 郡山駅西口駅前広場における流動者の実態について

○阿部 憲介, 土方 吉雄, 三浦 金作, 松下 幸太

・地方都市における駅前広場整備手法に関する研究

その2 郡山駅西口駅前広場における滞留者の行動特性 ○松下 幸太, 土方 吉雄, 三浦 金作, 阿部 憲介

・水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究

その28 探索歩行時の注視範囲と視線移動について ○新鞍 俊介, 三浦 金作, 土方 吉雄, 竹内亜紗美

・水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究

その29 探索歩行時の脳波の電位変化について ○三浦 金作, 土方 吉雄, 新鞍 俊介, 竹内亜紗美

・水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究

その30 探索歩行時の歩行経路選択について ○竹内亜紗美, 三浦 金作, 土方 吉雄, 新鞍 俊介

・街並み構成材料の地域特性に関する調査研究

その14 景観条例の地区指定が外装材料の多様化―統一化傾向に及ぼす影響

○田綿 隆文, 岩崎 博, 土方 吉雄

■日本インテリア学会大会 日時：平成17年10月21～23日, 会場：琉球大学（沖縄）

・JIS規格改訂に伴う学校教室用机・イスの使用実態に関する検討

～新JIS規格の導入実態と座席周囲に必要なスペースについて～

○根本 賢, 若井 正一

・人体動作寸法のデジタルデータ化とその応用に関する研究

～立ち座りの移行動作を事例として～

○木村 友明, 増子 順一, 若井 正一

・妊婦の日常生活における不便さや困難動作に関する一考察

○高梨 秀樹, 若井 正一

・能舞台における演者等の姿勢・動作に関する一考察

○小堀まどか, 若井 正一

■第13回日本雨水資源化システム学会 日時：平成17年11月2～3日 場所：琉球大学（沖縄県）

・水循環による雨水の再資源化システムとその性能評価

○山森 雄介・出村 克宣・藤島 寿

研究こぼれ話

専任講師 浦 部 智 義

音楽の都ウィーンに調査で行った際、クラシック音楽の殿堂「ムジークフェラインザール」や「ウィーンシュターツオーパー（ウィーン国立歌劇場）」よりも街に溶け込んだ印象を持った劇場がある。やや小ぶりで庶民的な劇場「フォルクスオーパー」である。その事も含め10年程前に調査で訪れたウィーンでは、若い私に多くの発見や気づきをくれたことを思い出す。

（編集室付記：この詳細は、次号に掲載予定です。）



写真：フォルクスオーパーの外観

祝 平成17年度 卒業式・修了式における表彰者 平成18年 3月25日

◇優等賞：熊田慎吾，久保田浩司，伊藤慎也

◇斉藤賞：

・修士論文「ポーラスコンクリートブロックを用いた水循環による水質浄化システムの開発」

山森雄介（指導教員：出村克宣教授）

◇北桜賞：

・修士論文「歩行条件の異なる歩行者の探索行動と注視に関する研究～注視傾向と空間把握について～」

竹内亜紗美（指導教員：三浦金作教授）

・修士論文「鉄道騒音の評価方法に関する実験的検討」

増井正孝（指導教員：濱田幸雄助教授）

◇桜建賞：

・卒業論文「接合パネルに斜補強筋および繊維補強高強度コンクリートを用いた柱・梁接合部の実験的研究」

荒井宏嘉，幸田和浩，國分佑一，坪山喜胤，宇治川遼（指導教員：黒田浩司教授，S. パリーク専任講師）

・卒業論文「廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーコンクリートの開発」

森 裕克（指導教員：大濱嘉彦教授）

・卒業論文「学習用机・いすの機能性に関する人間工学的研究」

田中 健，上野健太，滝川さや香，田村愛美（指導教員：若井正一教授）

・卒業論文「生活環境を題材としたユニバーサルデザイン教育に関する研究」

鈴木翔子，森田睦美（指導教員：松井寿則助教授）

・卒業設計「ぼくらのしま ～瀬戸内アート巡礼～」

山崎達郎（指導教員：市岡綾子専任講師）

◇学協会賞：日本仕上げ学会優秀修士論文奨励賞

・修士論文「高性能・多機能ポリマーセメントモルタル及びコンクリートの開発」

太田将弘（指導教員：大濱嘉彦教授）

■土方助教授は，11月10日，栃木県立真岡女子高等学校の依頼による一日大学において，「景観づくり」と題して講演した。

■若井教授は，11月26日に郡山市総合福祉センターにおいて，福島県知事指定UD講座「人間工学からみたユニバーサルデザイン」と題して講演された。また，11月27日に白河地域職業訓練センターにおいて県UDサポート事業の一環として「人間環境系からみたユニバーサルデザインの役割」と題して講演された。

■三浦敏伸大学院講師（レーモンド設計事務所代表取締役社長）は，11月30日付で，APECアーキテクト制度の認証建築家に登録された。

■土方助教授は，12月12日，NPO東北まちづくり協議会の連続討論会「エコロジカルなまちづくりへの提言」のパネリストとして，「環境共生住宅市街地モデル事業について」と題して講演した。

■本年度の大学院特別講義（2件）

が，次の内容で開催された。

① 東京工業大学・大野隆造教授，演題「建築・都市デザインにおける環境行動研究の役割」（12月14日）

② 名古屋大学・大森博司教授，演題「構造形態創生法と構造デザイン」（1月18日）。

教室ニュース

■土方助教授は，12月20日，福島県より田村市館地区景観検討委員会の会長に選出された。

■若井教授は，第24回福島県建築文化賞授賞式において審査委員長として審査講評と賞状授与等を行った。（1月17日，福島市・杉妻会館）

■土方助教授は，1月29日，福島県景観アドバイザー派遣事業により，須賀川市景観まちづくりセミナーの講師を依頼され，「みんなで考えよう，まちの景観」と題して講演した。

■土方助教授は，2月9日，郡山市より郡山市政策研究会講演会の講師を依頼され，「持続可能なまちづくりに向けて」と題して講演した。

■若井教授は，合併に伴う新たな白河市の発足により都市計画審議会委員および都市景観審議会委員長を委嘱された。（2月23日）

■日本インテリア学会東北支部（支部長・若井教授）の年次総会と記念講演会が2月24日に本学部において開催された。記念講演会は，「最近の室内環境を取り巻く諸問題」と題して，東北文化学園大学大学院・野崎淳夫教授が基調講演された。

■大濱教授は，3月13日から3月19日まで，米国における硫黄コンクリートの開発状況の調査のため，The Sulfur Instituteなどの訪問及び施工現場見学を行った。

■人事：

松本文夫大学院講師は，東京大学より総合研究博物館の助教授に任用された。（11月1日）